

2023年度 施策マネジメントシート【2022年度実績評価】

作成: 2023年6月5日

施策番号 2-1-1	施策名 学校教育の充実	基本目標 心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり 政策名 豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実	
	主管課 教育推進課	課長名 有澤勝昭	内線 441
	施策関係課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
地域社会と連携しながら信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒	・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り開くための資質・能力を身につける				児童生徒が社会に出たときに自立できる		
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
① 「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	75.8	74.0	77.1	72.9	75.9	80.0	
② 「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.2	77.4	75.8	79.5	78.5	78.0	
③ 「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	85.7	87.7	85.2	87.7	77.0	90.0	
④									
成果指標設定の考え方	成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、①「豊かな学力」、②「豊かな心」、③「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。 目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費（千円）	907,458	895,658	1,184,039	1,049,496	917,922
人工数(業務量)	6.4412	7.0169	7.5902	7.5132	8.2525

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価 (前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	指標②は若干低下したが①は上昇。これは、少人数学級編成、授業改善、不登校支援、ICT教育環境の整備など個に応じた指導の充実によるもの。指標③の低下は、食育・食農教育の充実を図ったが、家庭との連携不足も要因と考えられる。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠 (理由)	指標①、②の目標達成に向け、少人数学級編制や習熟度別小人数指導、特別支援教育の充実、不登校支援システムの構築、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実を図ってきたが、指標①については、授業改善の組織的なPDCAサイクルの定着に至らず目標を達成出来なかつた。 指標③の目標達成に向け、栄養教諭による全校全学級を対象とした食育指導や食農教育の充実を図ってきたが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携不足もあり目標を達成出来なかつた。

(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	①児童生徒支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	③学校給食管理運営事業
	②小学校・中学校教材・教具整備事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「①」⇒小学校全学年35人以下学級編成のため町独自で臨時教諭を配置すると共に、特別支援教育の推進のため地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置、更には、不登校支援システムを策定し個に応じた学習支援を実施した。 ・「②」⇒ICT教育推進のため、児童生徒一人一台の端末を配備すると共に、大型提示装置や学習支援ソフト(AIドリル、プログラミングソフト)を導入し、個別最適な学の環境を整備した。 ・「③」⇒栄養教諭による全校全学級の食育指導を実施すると共に、芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」の提供や「食農教育」の充実を進めたが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携が不足していた。		

担当課 評価	指標③については策定時より低下したが、少人数学級編成、特別支援教育、不登校支援、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実を図ることで、計画策定時と比較し前進したと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した
E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ①学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応。(R1:学校施設等長寿命化計画策定)／②医療的ケア児を含む特別支援教育を必要とする児童生徒の増加への対応。(R2:地域コーディネーター複数配置)／③ICT教育推進への対応(R2:ICT整備・活用指針策定)／④登校に困難を抱える児童生徒の増加への対応(R3:不登校支援システム策定)／⑤部活動の地域移行への対応 《今後の予測》 ①小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた計画的整備が必要。／②医療的ケア児支援法を踏まえた組織的対応方針の策定が必要。／③授業改善を前提としたICT活用指針の改定が必要。／④不登校支援システムに基づく、組織的取組の定着が必要。／⑤地域移行に向けた課題の抽出、移行方法等を協議する場が必要。(R5:協議会設置)
	この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。 ・上美生地域保護者より小中学校配置計画の早期見直しの要望がある。⇒R5年度に保護者・地域住民との協議を開始する。 ・不登校児童生徒への支援が必要である。⇒不登校支援システムに基づき組織的・計画的に取り組む。 ・不登校支援システムを推進する上で専門性が必要である。⇒システム策定時に有識者の意見を踏まえ策定しましたが、今後も継続しシステムを推進する。 ・部活動の地域移行については、慎重に取り組む必要がある。⇒関係機関による協議会を設置し課題等の整理を行う。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

①確かな学力の育成(児童生徒支援事業)⇒小中学校全学年における30人以下学級編制の実施等による習熟度別・少人数指導の推進、及び教育DX推進員の配置によるICT教育の推進、更には小中一貫教育の推進を図る。／②豊かな心の育成(児童生徒支援事業)⇒道徳教育や情操教育の充実、「いじめ防止基本方針」や「不登校支援システム」に基づく未然防止と早期発見・早期対応を図る。／③健やかな体の育成(学校健康診断実施事業・学校給食管理運営事業)⇒基本的な食習慣や生活習慣の確立のため、食育・食農教育、生活習慣病検査などの健康教育を推進する。／④特別なニーズに対応した教育の推進(児童生徒支援事業)⇒地域コーディネーターを中心とした発達支援システムの推進、及び、医療的ケア児支援法を踏まえた組織的支援体制の確立を図る。／⑤質の高い教育環境の整備(小学校・中学校教材・教具整備事業)⇒教育DX推進員の配置、AIドリルの導入などハード・ソフト・人材を一体としたICT環境の整備を進めると共に、部活動の地域移行に向け協議会を設置、更には、小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた学校施設の計画的整備を進める。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標が少しずつ目標に向かっていること、コロナ交付金を使った基盤整備・環境整備を行ったことから「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	今後はソフト部門などから学力向上に向けた取組を進めてほしい。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	5. 施策の課題認識に記載の「質の高い教育環境整備」が重要であり、コロナ交付金を活用したエアコン設置によって、災害級の暑さの中でも子どもたちの教育環境が整備されていたことから「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・成果指標③が低いことが気になる。毎年調査対象の子どもが異なることから、実態が把握できない。町独自で調査してはどうか。 ・教育に関して国の方針はあるが、芽室町としてどのような子どもを育てたいのか、ということが重要である。 ・成果指標①について、先生に対しても「昨年と比べて生徒がわかりやすいと思える授業ができたと思うか」などアンケートを実施し、その回答結果を踏まえた対策へ繋げることができるのでないか。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					